

賃貸住宅で暮らす

☑ 若い頃のストツツさん

「僕の部屋、そろそろ契約更新なんだ。また値上がりするのかもしれないと思うと、うんざりするよ」

😊 若い頃のフローさん

「そういえば、僕の家も更新時期だなあ。大家さんのんびりしているから、忘れてるんじゃないかな」

ストツツさん 「彼女とそろそろ結婚しようと思っているからね。契約更新してすぐ家を出ることになると思うと、更新料がもったいないよ」

フローさん 「結婚したら、家を買うのかい」

ストツツさん 「もちろんだよ。僕も身を固めるんだから、家くらい買わなきゃね。結婚しても賃貸に住みつづける人なんて、資金を貯めておかなかつたかよほど給料が安いからどっちかじゃないか。あ、僕の知り合いには「住宅ローンが返せなくなるのが怖いから、賃貸の方が安心」って言っているやつもいるけどな」

フローさん 「へえ。そんなものかな。僕も今の彼女と結婚するつもりだけど、今の借家を貸してもらえうちは住みつづけるつもりだよ。今の家は居心地がよくてさ。大家さんの両親が住んでいた家らしいんだけどね、築50年にもなる家なんだ」

ストツツさん 「そんな古い家で、よく彼女が新婚生活を送るって言ってくれたな。奇特な人だね」

フローさん 「そうかい。彼女も今の家を気に入っているよ。大家さんとよく世間話しているし、いっしょに植木の手入れや柵のペンキ塗りをしているよ。昔の人が住んでいた家だからかな、玄間に小さな鍵用の棚が洗えてあったり、台所の収納がよくできていたりして、「夫がいろいろあって楽しい」なんて言っているしね」

家という知恵を受け継ぎ受け渡す

フローさんは、家に住みこなすことを楽しんでいる。「住みこなす」と考えたときに、家を持ち家か借家かはあまり重要な要素ではない。

もちろん、今の借家事情では「家に傷をつける」ことはご法度だ。契約前にしっかりと納めさせられた敷金が返ってこないだけでなく、追加で修繕費用を出さなければならぬいはめになってしまっただろう。借家を自分の使いやすいようにリフォームするなど、考